

(様式1)

校 種	小 ・ 中 どちらかに○	学校番号	3	学校名	宇都宮市立西小学校
-----	-----------------	------	---	-----	-----------

令和5年度 学校経営計画

1 教育目標

(1) 基本目標

豊かな創造力をもち、思いやりのある心情、たくましい気力と体力、自主的精神に満ちた実践力のある児童を育成する。

(2) 具体目標（具体的な児童生徒像など）

考える	思いやる	鍛える
よく考え、学ぶ子ども	思いやりのある子ども	心身を鍛える子ども
基礎基本を活用し、他者の意見と比べながら、よりよく考える子ども	基本的な生活習慣を身に付け、他者の気持ちを想像して言動ができる子ども	健康と安全に気を配り、たくましい気力と体力をもった子ども

2 学校経営の理念

楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるための課題意識を持ち、その解決を図るために、知識・技能を確実に身に付け、活用して、自分の考えを持ち、他者の意見と比べながらよりよく考える、コミュニケーション力のある児童の育成をめざした学校づくりを推進

3 学校経営の方針

(1) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進

教材やICT等を効果的に活用しながら、「宇都宮モデル」などを踏まえ、授業の展開・改善を図る。

- ① 「宇都宮モデル」（「はっきり」、「じっくり」、「すっきり」）の各過程の指導の質的向上を図る。
- ② 単元や題材等の指導と評価の計画に、学習を見通し、計画を立てる場面、学習を振り返る場面等を設定した上で、児童が課題の解決に向けて粘り強く取り組みながら、自らの学習状況を把握し、主体的に学習を調整していくこと（主体的に学習に取り組む態度を育むこと）ができるよう、指導・支援を行う。
- ③ 児童の発達段階を踏まえながら、学習内容や学習活動に応じて1人1台端末を効果的に活用し、授業の質的向上を図る。
- ④ 児童の発達の特性や理解度に応じた効果的な学習が展開されるよう、課題の提示や展開の仕方などに、特別支援教育の視点を取り入れ、個別最適な指導の充実を図る。

(2) 他者への思いやり、基本的な生活習慣、規範意識、自己肯定感の育成

- ① 宮っ子心の教育、人権教育、体験活動、読書活動、児童生徒指導の充実により、他者への思いやりや規範意識を育み、いじめを生まない指導・支援に努める。
- ② 魅力にあふれ安心して過ごせる学校づくりにより不登校の予防に努めるとともに、組織的な対応による支援の充実を図る。
- ③ 役割を分担し、協力して取り組む機会や異年齢交流を通して、年少者の世話をする機会等を充実させるとともに、様々な体験活動や読書活動を通じて、達成感や成功体験を得させることにより、自己肯定感を育む。
- ④ 「あいさつ」「返事」「時間」「生活リズム」「言葉遣い」を中心に、基本的な生活習慣を育む。

(3) 体力の向上と健康の保持増進

- ① 学校健康教育推進計画を踏まえ、「体力の向上」、「保健教育」、「食育」、「安全教育」の4つの教育を一体的に捉え、デジタルを効果的に活用しながら元気アップ教育の推進を図る。
- ② 教科体育の充実を図り、基礎的な体力と運動やスポーツに親しむ態度を育成するとともに、外遊びの奨励、「うつのみや元気っ子チャレンジ」の実施など、教育活動全体を通して、運動機会を創出する。
- ③ 食育の推進を通して、望ましい食習慣を形成し、感謝の念を育成する。

(4) 教職員の資質能力の向上

- ① 自律的に学ぶ姿勢を持ち、時代の変化や自らのキャリアステージに応じて求められる資質能力を高めるとともに、学校作りのチームの一員として、組織的・協働的に諸課題の解決に取り組む専門的な力を身に着ける。
- ② 授業研究会を軸とした校内研修の充実により、相互に高め合い、学びあう協働的な同僚性を構築し、教職員の実践的指導力と専門性を向上させる。なお、養護教諭、学校栄養士、学校図書館司書とのTTによる授業を積極的に展開し、専門性を生かす方策を研究する。
- ③ 業務改善を推進することにより、ワークライフバランスのとれた働き方の実現を図り、教職員一人一人が、心身共に健康で、能力を最大限に発揮できるようにする。

(5) 地域とともにある学校づくりの推進

- ① 学校、家庭、地域が目標やビジョンを共有し、相互に連携・協働することによって、子どもたちの豊かな学びと成長を実現する。
- ② 学校園における小中の連携と、義務教育9年間を一体とした指導によって、学校生活へ円滑に適応させ、学力を保障する。
- ③ 学校及び教師が担う業務の明確化・適正化に努め、学校、家庭、地域が適切な役割分担のもと、相互に連携・協力を推進する。

一条地域学校園教育ビジョン

「基本をしっかり身に付け、地域に生きる子どもを育む一条地域学校園」

4 教育課程編成の方針

- (1) 教育基本法及び学校教育法その他の法令並びに学習指導要領、宇都宮市立小中学校の教育課程及びその編成の基準に従い、教育課程を編成する。
- (2) うつのみや学校マネジメントシステム、学習内容定着度調査等の各種調査結果やデータを効果的に活用し、児童の心身の発達の段階や特性及び学校や地域の実態を十分考慮して、特色をもった教育課程を編成する。
- (3) 学習の基盤となる資質・能力やSDGs等に係る現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を育成していくことができるよう、問題解決的な学習の充実を図るとともに、教科等横断的な視点で、各教科等の関連付けを図りながら教育課程の編成に努める。

5 今年度の重点目標（「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○）

(1) 学校運営

よりよい学校生活を築くための課題意識を持ち、その解決を図ろうとする児童の育成

(2) 学習指導

「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした指導方法の工夫
～思考力の育成を目指した授業の実践～

(3) 児童生徒指導

規範意識をもち、自他を大切にすることができる児童の育成

(4) 健康（体力・保健・食育・安全）

基礎体力の向上と望ましい食習慣の形成をめざした指導の充実

6 学習指導、児童生徒指導、健康（体力・保健・食育・安全）に関する取組

※ 様式2～4参照

7 特色ある学校づくり等に関する取組

（1）育てたい資質・能力

コミュニケーション力

（2）具体的取組（提案型予算「頑張る学校プロジェクト」に関する取組には文頭に◇）

① 基本的な生活習慣の定着

あいさつや返事、礼儀作法を身に付け、時と場に応じた言葉遣いができるようになるための活動

（あいさつ運動、授業開始・終了時、職員室や保健室等の入退室時のあいさつ）

② 規範意識の獲得

自分の感情を適切にコントロールし、きまりや約束を守って行動することができるようにするための活動（「西小よい子の1日」の徹底、道徳教育）

◇③ 望ましい対人関係の構築

自分の気持ちや考えを適切に伝え、思いやりを持って相手の考えや思いを受け止めることができるようにする活動

（難聴学級児童との交流、ふれあい給食、わくわくタイム、学級活動(1)）

④ 集団活動の体験

責任をもって役割を果たすとともに、集団の中で自己のよさを発揮することができるようにするための活動（西地区大運動会、6年生を送る会、縦割り班活動）

◇⑤ 社会生活の体験

地域行事への参加、ボランティア活動等をとおして、役割を果たす充実感や社会貢献への喜びなどを味わうことができるようにするための活動

（クリーンアップin西、6年生インターンシップ）

8 本市の重点施策・事業との関連

（1）地域とともにある学校づくり（「魅力ある学校づくり地域協議会」との連携・協働を含む）

① 基本的考え

学校、家庭、地域が目標やビジョンを共有し、相互に連携・協働することによって、子どもたちの豊かな学びと成長を実現する。

② 主な取組

ア 地域人材による支援や地域教材を活用した学習活動（ひまわりプロジェクト）

・表現運動

・「地域が先生」に学ぶ

（リズムダンス、折り紙、百人一首、ふくべ細工、体幹を鍛える運動、生け花等）

イ 地域団体やPTAとの共催事業の実施

・西地区大運動会

・ベストフェスタ in 西

ウ 学校支援ボランティア

（2）小中一貫教育・地域学校園

① 基本的考え

学校園における小中の連携と、義務教育9年間を一体とした指導によって、学校生活へ

円滑に適応させ、学力を保障する。

② 主な取組

A 学習部会		重点目標
・学力向上分科会	子どもが意欲的に取り組む授業，学びに向かう集団作り	
・宮っ子心の教育分科会	自ら考え，判断し，責任を持って実行できる自己指導能力の育成・向上を図る	
・図書館分科会	読書活動と情報活用を充実し，広い視野と思考力・判断力・表現力を育成する	
B 生活部会		
・生活分科会	きまりやマナーを守り，自他を大切にする子どもの育成	
・不登校対策分科会	特別支援教育の視点を活かし，自己肯定感，自己有用感をはぐくむ教育相談に努める	
C 健康・体育部会		
・体育分科会	粘り強く健康・安全に運動に親しむ児童生徒を育成するための工夫 ～持久力向上を目指して～	
・保健分科会	よりよい生活習慣の確立を目指すために，早寝早起きを心がけさせる	
・食育分科会	地域の産物，食生活や食にかかわる歴史・文化・環境との調和等を理解し，職を尊敬する心を培う	

(3) 不登校対策

① 基本的考え

普段からの信頼関係の上に成り立つ学級経営，課題の早期発見・早期対応など，「魅力あふれ安心して過ごせる学校づくり」を推進するとともに，児童の個々の状況に応じた1人1台端末の活用など支援の充実を図る。

② 主な取組

ア どの児童も温かい雰囲気を受け入れる子どもに寄り添った学級経営

イ Q－Uの結果や個別の教育相談等を活用した児童理解

ウ 欠席状況共有シートや引継ぎシート等を活用した，不登校の兆しをとらえた初期対応

エ 定期的なケース会議の開催等による，担任をサポートするチーム支援

オ 子ども同士のつながりや複数の教職員のかかわりを大切にした別室登校支援

カ 1人1台端末を有効に活用して，授業配信や課題のやりとり，必要な情報提供など，保護者と連携しながら，学校ができる支援の継続

キ 適応支援教室等を利用している児童の活動状況を把握し，児童及び保護者との継続的なかかわりが途切れない努力

(4) G I G Aスクール構想

① 基本的考え

学びを深めることができるよう、授業において1人1台端末を有効に活用したり、家庭においても積極的に活用させたりし、G I G Aスクール構想の推進に努める。

② 主な取組

ア「GIGA スクール News」等を参考に、授業のねらいを達成するための効果的な活用

イ「AI 型学習ドリル」を中心に、家庭学習における積極的な活用を図る

ウ ICT 機器の善き使い手となるよう、デジタルシティズンシップを育む

(5) 宇都宮学

① 基本的考え

児童生徒が郷土宇都宮の自然や交通、伝統文化などについて理解し、郷土への愛情と誇りをもてるようにする。

② 主な取組

ア 3, 4 年生の社会科学習をとおして、宇都宮のよさに気付かせ、親しませる

イ 5, 6 年生の総合的な学習の時間、宇都宮の「自然と交通」、「伝統文化」の学習をとおして、宇都宮のよさを理解させる

ウ 地域が先生による「百人一首」(3 年生)、「ふくべ細工」(4 年生)の実施